

複式第3・4学年 国語科学習指導案

第3学年 男子3人 女子3人 計6人

第4学年 男子5人 女子1人 計6人

指導者 笠井和子

1 単元名

(3年) 説明の工夫について話し合おう / (4年) 段落どうしの関係を捉え、説明の仕方について考えよう
「すがたをかえる大豆」 「アップとルーズで伝える」
コラム「絵や写真を使って説明する」 コラム「言葉で変わる写真の印象」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(3年)

この期の児童は、これまでに2年下「説明の仕方に気を付けて読もう」で写真や絵を使って説明をする際、事柄の順序を表す言葉を使う等の工夫を読みとる力を身に付けてきている。また、3年上「まとまりを捉えて読み、感想を話そう」では、「問い」と「答え」を捉えたり、まとまりを「段落」ということを初めて学習し、「はじめ」「中」「終わり」の文章構成やそれぞれの段落の内容を捉えたりする学習を行っている。しかし、「初め」「中」「終わり」というまとまりは、説明的な文章や「書くこと」における指導等で繰り返し出会ってはいるものの「まとまり」と「段落」を意識して文章を読む経験は浅く、段落相互の関係を考えながら読む力や経験は不足している。

そこでここでは、中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に読み取る能力や文章の構成を意識して読もうとする態度を身につけさせたいと考え、本単元「説明の工夫について話し合おう」(教材「すがたをかえる大豆」/コラム「絵や写真を使って説明する」)を設定した。

この学習は、目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書く「食べ物のひみつを教えます」の学習へと発展するものである。

(4年)

この期の児童は、これまでに2年下「説明の仕方に気を付けて読もう」で本単元につながる筆者の説明の工夫について考えてまとめる学習を行っている。3年下「説明の工夫について話し合おう」で中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる力を身につけている。また、4年上「興味をもったところを発表しよう」で筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係を捉えて、段落相互の関係を考える学習も行っている。しかし、説明をする際、事柄の順序を表す言葉を使う等の工夫は読み取れるものの、段落相互の関係や役割を意識しながら読む力や経験は不足している。

そこでここでは、それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読み取る能力や対比的に書くという説明の仕方の工夫、段落相互の関係を捉えて読もうとする態度を身につけさせたいと考え、本単元「段落どうしの関係を捉え、説明の仕方について考えよう」(教材「アップとルーズで伝える」/コラム「言葉で変わる写真の印象」)を設定した。

この学習は、説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう『クラブ活動リーフレット』を作ろう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「すがたをかえる大豆」は、大豆やその加工食品について書かれたもので、児童にも身近なものである。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは原料が大豆とは分からないものも多く、児童にとっては新鮮な驚きをもたらすだろう。本教材は、大豆をおいしく食べるための工夫を5つの例で説明している典型的な解説型の文章である。「大豆をおいしく食べる工夫」が一段落一事項で書かれ、各段落の一文目が説明の中心と

教材「アップとルーズで伝える」は、児童が最もよく目にしているメディアであるテレビの映像技術を中心に述べたものである。本教材の特徴は、「写真と文章の対応」と「対比的な段落構成」である。アップとルーズの違いがよく分かる写真が使われており、写真と段落の関連性を考えながら、語句の理解や段落の内容、対比的な説明、段落相互のつながりを学習することができる。児童にとって説明の工夫を見つけるという活動がしや

なる文になっている。また、5つの事例が接続語を使って、簡単なものから複雑なものへと順に並んでいる等、段落相互の関係についても理解を深めることができる教材である。

本単元では、次の単元「例を挙げて説明しよう」とつなげ、食べ物事典作りを言語活動として設定する。

そこでまず、「すがたをかえる大豆」を読む必要性をもたせるために、単元導入時には、「すがたを変える大豆クイズ」を行い、大豆を使った食品の実物や写真を見せて、大豆についてイメージをもたせる。また、「説明の仕方の工夫について話し合おう」「学習を生かして食べ物事典を作ろう」の2つの学習課題を立て、学習の目的と見通しをもたせ意欲的に学習に取り組めるようにする。

次に教材文を読み取る段階では、全体の組立を読み取らせ、「中」の段落は並列の関係にあり、各段落の最初の文が、説明の中心になる文となっていることに気付かせる。また、「いちばん分かりやすいのは」「さらに」等の言葉を細かく読み取ることで、事例が提示される順番にも着目させる。

本単元を通して、子どもたちは説明の工夫を見つけることで、分かりやすい説明の文章を書く喜びを実感することに結びついていくと考える。

すくなっている、分かりやすい説明とはどのようなものであるかを学ぶのに適した教材である。

本単元では、次の単元「説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」とつなげ、リーフレット作りを言語活動として設定する。

そこでまず、「アップとルーズで伝える」を読む必要性をもたせるために単元導入時には、写真と文章を結びつけるゲームを行い、写真と文章で説明することに興味をもたせる。「説明の仕方の工夫を見つけよう」「学習を生かしてリーフレット作りをしよう」の2つの学習課題を立て、学習の目的と見通しをもたせ意欲的に学習に取り組めるようにする。

次に教材文を読み取る段階では、指示語・接続語、文末表現に着目させながら、「文章構成」「写真と文章の対応」「段落の対比」等筆者の書きぶりから説明の仕方の工夫について考えさせる。対比して述べることで、2つのものの違いがはっきりするという事は、自分が話したり書いたりして何かを説明する際にも使えるという意識をもたせる。

本単元を通して、子どもたちは上手な説明の仕方を見付けることで、読み手に分かりやすく伝える文章を書く喜びを実感することに結びついていくと考える。

(3) 児童の実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味・関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す。) [調査日：平成28年9月2日]

3年生	4年生
① 「すがたをかえる大豆」の初発の感想	① 「アップとルーズで伝える」の初発の感想
○ 大豆がいろいろなすがたで食べられていて、驚いた。(2)	○ アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあると初めて知った。(1)
○ 大豆が味もよく畑の肉と言われているくらいたくさん栄養を含んでいると初めて知った。(2)	○ アップとルーズのよさや違いが分かった。(1)
○ 煎ったり煮たりして食べやすくしていることが分かった。(1)	○ 受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて使い分けしているところがすごいと思った。(2)
○ よく分からない。(1)	○ 広い範囲を写す撮り方を「ルーズ」、ある部分を大きく写す撮り方を「アップ」というと、初めて知った。(1)
② 大豆からできている食品 (複数回答)	○ よく分からない。(1)
○ きな粉 (1) ○ 豆腐 (5) ○ おから (1) ○ 豆乳 (2)	② 段落構成
○ 分からない (1)	○ 第3段落を「このように」から選択 (6)
③ ①段落中の問題を表している部分と答えの文	③ 文章中の接続語の選択
問 多くの人がほとんど毎日口にしてる物があります。なんだか分かりますか。(5) 無答 (1)	○ 逆接「でも」を選択 (6)
答 それは、大豆です。(4) 無答 (2)	
④ 難語句 (複数回答)	
コウジカビ 中身 風通し 作物 意外と 黒豆 時期 消化 こなにひく 水にひたし にがり 蒸した	風をはらみ (はらむ) たれまく 紙面 ハーフタイム チームカラー コート ホイッスル 視線 顔つき 目的に応じて 受け手 送り手

(考察)

〈3年生〉

本学級の3年生は6名で、複式1年目である。学力面で支援を要する児童がいたり、初めての複式学級だったため、ガイドを中心とした学習を主体的に進めることに慣れていない。しかし、ガイドが困っていたら周りの子がフォローして授業を進める手助けをしてくれる等、協力する態度は徐々に身につけている。

国語の学習に関する実態調査の結果から、「大豆」が他の食品に変わることにについては、理解ができていると思われる。しかし、日頃食している食品が実は大豆からできていたということを理解していない児童もいることから、本教材は児童に新鮮な驚きをもたらすと考えられる。読むことへの苦手意識により、教科書を始め、様々な分野の文章に抵抗を感じている児童がいる。さらに長文になると、読み進められない児童へ読む意欲を高める指導が必要となる。また、「段落」について既に学習はしているものの、意識的に説明文を読む習慣が身につけていない児童が多い。写真等の資料がないと読みにくさを感じている児童もいる。そこで、本教材の文章の構成や段落構成、写真と文章を組み合わせるといった工夫を捉えさせる必要がある。また、授業や家庭学習の中で音読を積極的に取り入れ、読むことへの抵抗を少なくする必要もある。

難語句の中には、読み取りに必要不可欠な語句が含まれているので、授業や家庭学習の中で語句の意味を調べる活動を取り入れていく。

(4) 単元の系統

〈3年生〉

2年

「しかけカードの作り方」

- ・ 順序を考えて教材文を読み、説明のしかたについて考えることができる。

「おもちゃの作り方」

- ・ 説明の順番を考え、言葉のまとまりに気をつけながら文章を書くことができる。

↓

6月「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」

- ・ 「段落」について知り、「はじめ」「中」「終わり」の文章構成や、それぞれの段落の内容を捉えることができる。

↓

11月「すがたをかえる大豆」

- ・ 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。

〈4年生〉

本学級の4年生は6名である。複式2年目であるため、ガイドを中心に学習を進めることができる。しかし、話し合いの時間をとってもなかなか意見が出なかつたり、じっくり考えることが苦手で、指示を待ったり友達の意見に流されたりする児童が多い。そのため、話し合いが深まらずに、練り上げられないまま授業が終わってしまうという現状である。

国語の学習に関する実態調査の結果から、初読の段階で概ね筆者の主張・意図を捉えることができていると思われる。接続語の理解も良好である。難しい内容や語句があっても学習することで、理解が深まることに楽しさや喜びを感じられる児童が多い。しかし、生活経験や興味・関心の違いから、「コート」等の日常よく使う語句を理解できていない児童もいる。授業や家庭学習の中で語句の意味を調べる活動を取り入れていく必要がある。

また、日頃説明文を読むとき、絵や写真等の資料と照らし合わせながら読んではいくが、その効果に気づいていない児童もいるようだ。そこで、本教材の段落構成や絵や写真等の資料の役割を理解させていく必要がある。

さらに、難語句の中には、読み取りに必要不可欠な語句が含まれているので、授業や家庭学習の中で語句の意味を調べる活動を取り入れていく。

〈4年生〉

3年「すがたをかえる大豆」

- ・ 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。

↓

6月「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」

- ・ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。
- ・ 筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係を捉えて段落相互の関係を考えることができる。

↓

11月「アップとルーズで伝える」

- ・ それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。

- ↓
- 1 1月「食べ物のひみつを教えます」
- ・ 目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。

- ↓
- 1月「ありの行列」
- ・ 紹介するために、文章の内容を適切に引用したりまとめたりすることができる。

- ↓
- 1 1月「クラブ活動リーフレット」を作ろう
- ・ 書こうとすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。

- ↓
- 1月「ウナギのなぞを追って」
- ・ 事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味をもったところ、感心したところを中心に、文章を要約したり引用したりして紹介することができる。

(5) 指導にあたって

本單元では、児童の実態も踏まえ、次のような点に留意していきたい。

〈3年生〉

- 「つかむ・見通す」段階では、大豆を使った食品の実物や写真を見せて、大豆についてのイメージをもたせ、内容の大体を読み取らせる。また、「学習を生かして食べ物事典を作ろう」という学習につながることも知らせる。
- 「調べる」段階では、それぞれの段落に出てくる食品をまとめ、「初め」「中」「終わり」に分けさせる。「問い」について考えさせることで、文章全体の話題を捉えさせ読み進めさせたい。事例を挙げる順番も文章の工夫であることを捉えさせたい。説明文を読み取るために必要な語句の意味を調べさせ、理解させる。既習内容「こまを楽しむ」の学習を振り返られるよう、資料を掲示しておく。調べたことを書くことに抵抗感をもっている児童がいるため、ワークシートを用意し、まとめ方やまとめたものを視覚的に理解しやすくする手立てを行う。
- 「まとめる」段階では、ここまで文章を読んできた様々な工夫を話し合いながらまとめさせたい。
- 「いかす」段階では、学習を振り返り、説明の仕方の工夫をしっかりと理解させたい。

〈4年生〉

- 「つかむ・見通す」段階では、題名読みから、文章の内容に期待をもたせたい。音読しながら段落を確かめさせ、写真にも番号を付けさせる。また、「学習を生かしてリーフレット作りをしよう」という学習につながることも知らせる。
- 「調べる」段階では、写真と文章の対応を考えさせる。指示語や接続語に着目させ、段落相互の関係を理解させたい。また、段落の役割を考えさせながら要点をまとめさせたり、段落相互のつながりを考えさせたりしながら、文章全体を捉えさせたい。説明文を読み取るために必要不可欠な語句の意味を調べさせ、理解させる。調べたことを書くことに抵抗感をもっている児童がいるため、ワークシートを用意し、まとめ方やまとめたものを視覚的に理解しやすくする手立てを行う。
- 「まとめる」段階では、新聞や雑誌を持ち寄り、実物を確かめながら「アップ」と「ルーズ」の使い分け・送り手が伝えたいことを捉えさせたい。
- 「いかす」段階では、学習を振り返り、説明する上でのよさや工夫をしっかりと理解させたい。

3 単元の目標

〈3年生〉

- ・ 文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとすることができる。
- [国語への関心・意欲・態度]
- ・ 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
 - ・ 内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら読むことができる。

[読むこと (1) イ・エ]

〈4年生〉

- ・ 写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読もうとすることができる。
- [国語への関心・意欲・態度]
- ・ それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
 - ・ 写真と対応した部分に注意して読み、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴を整理することができる。

[読むこと (1) イ・エ]

- ・ 文中の語句について、国語辞典を利用して調べることができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ)]

- ・ 指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解することができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ク)]

4 単元の評価規準

〈3年生〉

- ・ 文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度]
- ・ 中心になる文を確かめながら、説明されていることを整理している。
- ・ 構成や具体例に注意し、整理しながら適切に内容をまとめている。 [読むこと]
- ・ 文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

〈4年生〉

- ・ 写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度]
- ・ それぞれの段落の役割を、本文の内容から理解している。
- ・ 写真と本文の対応関係を理解している。 [読むこと]
- ・ 指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解している。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

5 指導計画

過程	時間	説明の工夫について話し合おう 「すがたをかえる大豆」 コラム「絵や写真を使って説明する」 (3年)〈全7時間〉	過程	時間	段落どうしの関係を捉え、説明の仕方について考えよう 「アップとルーズで伝える」 コラム「言葉で変わる写真の印象」 (4年)〈全8時間〉
つかむ・見通す	1	1 大豆を使った食品について考える。 2 「すがたをかえる大豆」を通読して大まかな内容を捉える。 3 「説明の仕方の工夫について話し合おう」「学習を生かして食べ物事典を作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	つかむ・見通す	1	1 P34・P35 の写真を見て、それぞれの写真から分かることを話す。 2 全文を読み、筆者の説明の工夫に関心をもつと共に、「説明の仕方の工夫を見つけよう」「学習を生かしてリーフレット作りをしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。
調べる	(本時3/7) 4	4 「初め」「中」「終わり」の段落分けを確かめ、文章全体の組み立てを捉える。 5 「初め」と「終わり」を読んで、内容を確かめる。 6 「問い」がないことについて考え「初め」の役割と文章全体の話題を捉える。 7 事例や言葉に注意して「中」を詳しく読み、内容をまとめる。 8 事例の説明の順番を考えたり、音読を通して中心文を捉えたりして、詳しく読む。 9 写真の使い方について考える。	調べる	(本時3/8) 5	3 「言葉」の学習をする。 4 第3段落と第1・2段落の関係を捉える。 5 第4～6段落の関係を捉える。 6 第7・8段落を読み、その役割について考える。 7 全文を読み返し、段落の内容を短くまとめ、各段落の文章全体に果たす役割を考える。 8 全文を読み、筆者が用いている説明の工夫についてまとめる。
まとめる	1	10 「すがたをかえる大豆」の説明の工夫を話し合ってまとめる。 11 他の食べ物を扱った本の内容や説明の工夫について、感想を話す。	まとめる	1	9 テレビや新聞、雑誌等で「アップ」と「ルーズ」の使われ方を見つけ、説明する上での良さを調べ、報告し合う。 10 「コラム」を読み、写真と文章の対応の仕方を考える。

いかす	1	12 単元の学習を振り返る。 13 学習したことを食べ物事典作りに生かしていくことを確認する。	いかす	1	11 学習を振り返り、まとめる。 12 学習したことをリーフレット作りに生かしていくことを確認する。

6 本時

3年生 (3/7)

4年生 (3/8)

(1) 目標

〈3年生〉

「中」の段落には、何をどのように説明してあるか読み取ることができる。

〈4年生〉

対比の関係に着目して段落の中心となる語や文を捉えながら、アップとルーズの違いを読み取り、段落相互の関係をつかむことができる。

(2) 指導にあたって

〈3年生〉

- 「つかむ・見通す」段階では、前時想起の後、学習のめあてをとらえさせ、学習の進め方を確認し、間接指導中の学習をガイド中心で進められるようにする。
- 「調べる」段階では、写真と文章を対応させたり、おいしく食べる工夫を確かめたりしながら読むことを指導する。また、一人調べに入る前に第3段落と第4段落をモデルに、言葉や文章の取り出し方や表現の仕方を指導することで、自力解決に取りかかりやすくしたい。
一人調べの様子をペアで確認し、スムーズに全体のまとめへと移れるよう、ガイドとの打ち合わせを入念に行っておく。
- 「まとめる」段階では、学習したことをうまく文章にまとめられない児童もいるため、穴埋め形式のワークシートも用意しておき、スムーズにまとめるようにさせたい。
- 「いかす」段階では、ワークシートを確認しながら学習を振り返り、説明の仕方の工夫をしっかりと理解させ、次時の事例の順番を考える学習につなげていきたい。本時の学習の感想も交流させ、次時への意欲をもたせるようにしていく。

〈4年生〉

- 「つかむ・見通す」段階では、ガイドを中心に漢字練習や速読に取り組みせ、時間がきたらスムーズに学習計画表を基に本時の学習について確認させたい。
- 「調べる」段階では、写真と文章を対応させながら読むことを指導する。また、対比して表現されている語句や文が重要語句や中心文につながることに気づかせたい。重要語句や中心文にサイドラインを引きながらアップとルーズの違いに気づかせる。
「しかし」「でも」に着目させ、それぞれの段落に長所と短所が書かれていることに気づかせる。特に、第6段落「このように」の後に「アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります。」と続いていることに着目させたい。
- 「まとめる」段階では、学習したことをうまく文章にまとめられない児童もいるため、穴埋め形式のワークシートも用意しておき、スムーズにまとめるようにさせたい。
- 「いかす」段階では、ワークシートを確認しながら学習を振り返り、説明する上でのよさや工夫をしっかりと理解させ、次時の第7・8段落の役割を考える学習につなげていきたい。本時の学習の感想も交流させ、次時への意欲をもたせるようにしていく。